

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覽表 ① (平成29年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価		第2回点検・評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	A	満足である生徒が90%以上である。より一層様々な生徒の活動を推進していく。	A	A	満足である生徒が90%台半ばに達しているが、わずかに存在する「満足していない」内訳をpushしておく必要がある。	
		② 「総合的な学習の時間」における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	本校の大きな柱である「総合的な学習の時間」の意義を共通理解し、これを通じて人間形成をするのだという強い意識を持たせる。	A	A	保護者アンケートの結果、90%以上が肯定的である。生徒の個に応じた指導を行うと共に、ポスター発表に向けての指導を進める。	A	A	外部からも評価の高い本校の活動であるが、「総合的な学習の時間」で行っている探究活動の意義は、生徒のみならず保護者へも周知する必要がある。最終プレゼンテーションの公開等も考えたい。	
		③ Oxbridge研修やその報告会などのグローバル教育を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。	Oxbridge研修参加者の体験をさまざまな機会に共有させるよう努める。	B	B	保護者アンケートの結果、80%以上が肯定的な評価だったが、本校として更に力を入れたい分野である。	B	B	保護者からの肯定的な評価はあるが、現状ではどうしても一部の生徒の活動という印象は否めない。「グローバル教育」としての活動を強化したい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 65分を有効に活用し、授業に80%以上の生徒が満足している。	ICTの活用やALの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	A	満足である生徒が90%以上である。今後もICTの活用やALの導入など、着実に進めていく。	A	A	生徒の満足度は高く、教員も多くは高い意識・使命感をもって教育実践を行っているが、本校の場合常に課題を見つけて日々新たに改善を目指すべきであり、生徒の満足度も100%を目指したい。	
		3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	① 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上実施している。	学力向上推進委員会を中心に計画を立て、研究授業、授業研究を実施する。	C	C	今後、職員研修を計画・実施する。	B	B	入試制度に大きな改革が見込まれ、本校も学級減という大きな節目を迎えている。職員研修は先手を取って積極的に行いたい。
	② 英語等によるコミュニケーション能力が身につけてきていると感じる生徒が90%以上である。	AL型授業、英検受験、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。	A	A	英語の授業の満足度は90%以上である。より英語のコミュニケーションを積極的に取り入れる。また、英検等受験を勧めていく。	A	A	本校英語科の取組は文科省の指定を受け、先駆的な内容で県下各高校を牽引する立場にあり、教科終了組織的な指導が実践されている。		
III 生徒の充実した学校生活について、適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。	C	C	9月の調査では、平日平均が1年生2.1時間、2年生1.7時間、3年生3.9時間。朝学習や自習室の活用を促したい。	C	C	直近の調査では、平日平均1年生2.1時間、2年生2.0時間、3年生4.6時間であった。本校を飛躍させるカギはこの項目にある。保護者が不安を感じているのも家庭での学習時間の少なさである。単に宿題を増やせばよいという問題ではなく、本校の大きな課題である。	
		5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っている。	学年と生徒指導部とが密接に連携して、特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	B	-	会議を実施し、情報の共有ができています。他学年間での共有の工夫が必要である。	B	-	満足できる水準であるが、改善の余地はある。組織としての有機的活動、有効性の向上を工夫したい。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。	学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。	A	A	9月現在、学校平均で1日あたり6.9人である。96%の保護者が効果を認めている。	A	A	2月末で学校平均1日あたり8.3人と増加。遅刻者はそのほとんどが常習者であり、個別のケアが必要である。
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	A	A	登校時を中心に挨拶運動を週3回は実施している。96%の保護者が効果を認めている。	A	A	挨拶は定着してきた。規律遵守については少数ながら意識の低いものがあり、今後の課題である。	
		① 部活動に95%以上の生徒が加入している。また、県総体総合3位以上及び関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取り組みと上位進出を促す。	A	A	前期の部活動加入率116%、県総体総合優勝、関東大会以上に出場した部活動が9部と当初の目標を達成できた。	A	A	この項目に関しては十分に目標を達成できた。継続が課題となる。	
		② 部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。	本校の教育目標に則り、各顧問が充実した活動計画の元に活動する。	A	A	保護者アンケートでは90%の満足度であった。3年生が引退後も充実した活動ができるようにする。	A	A	下級生への引き継ぎは各部ともスムーズに行えたようである。満足度の低い少数者に個別対応の必要がある。	
8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	③ 定期戦及び文化祭をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	B	A	保護者アンケートでは95%の満足度であった。主体的に取り組む生徒は多い。行事への参加意欲の低い生徒の自主性を促したい。	B	A	各行事は本校教育活動の大きな柱である。したがって保護者の高い満足度はあるが、さらに消極的な生徒に対する分析と対応を考える必要がある。	
		① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が90%以上である。	ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。	B	C	昨年制定したスマホルールの徹底が不十分であり、保護者でも73%しか効果を認めていない。	B	C	校内での使用についてはほとんど問題を感じないが、家庭における使用状況には問題があるようである。家庭との連携が必要である。	
		② いじめの事実が隠蔽されず、実態把握やいじめにたいする措置、また、いじめ防止等の対策を適切かつ組織的にを行い、いじめのない学校を目指す。	人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。	A	A	アンケートを中心に実態を把握し、係職員やSCの指示により対応を行っている。97%の保護者が効果を認めている。	A	A	適切・迅速な対処により満足できる状況となっている。この問題に関しては100%を目指したい。	
9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が6,000冊を超えている。	国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。	B	B	出張図書館の実施など新たな取組で貸出数増加を図る。	A	A	当初の目標を達成し、2月末段階で7,000冊を超えた。更なる向上を目指したい。		

IV 生徒の主体的な進路選択について、適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施している。 ② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。 「前高ジャーナル」と「進路概況」の内容を生徒のニーズに合わせたものにする。	A	A	概ね10回程度計画されている。適宜改善していく。	A	A	計画的に実施できた。不断の改善努力を行いたい。
	11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供する。	未	未	生徒が納得して志望校を選択できるよう、さまざまな情報を提供していきたい。	未	未	納得できる進路選択の結果が浪人の増加につながっている。現役生として納得できる進路を得るための学習指導が前提であり、その充実が必要である。
	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	① 「前高web page」の内容を月2回更新し、学習・進路・部活動等各種情報を発信している。 ② 「学校案内」を充実・改訂し、本校の魅力をアピールする。	各分掌・部活動等から情報を集めると共に、学校行事の様子など適切かつ効果的に情報を発信する。 特別委員会を組織し、全面改訂を行う。	B	B	引き続き各方面からの情報収集に努めるとともに、よりタイムリーな情報を発信する。	B	B	依頼された更新情報には迅速に対処しているが、各団体からの依頼そのものに粗密がある。校内手続を見直したい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	P T A ・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。	A	A	編集委員会を中心に、学校案内を大幅に充実し改訂した。	A	A	編集委員会を中心に、学校案内を大幅に充実した。今後の改訂にも配慮したい。
	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用したの通学など、事故に遭いにくい通学を促す。	B	—	母の会講演会は、今年もOBを招聘して開催した。キャリア教育ではNPO法人組織より地域出身の講師を招聘し貴重な講演を聴けた。	B	—	当初目標は最低限クリアしたが、この項目については、生徒の知見を増やすため、地域や他校の情報等も積極的に収集して、さらに充実させたい。
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 毎月安全点検を実施する。また、年2回、防災避難訓練を行う。	簡易地震（防災）マニュアルを職員に周知し、災害発生時に全職員が適切な対応をできるようにする。	C	A	93%の保護者が効果を認めているものの、外部からの苦情に苦慮しており、指導が徹底しているとは到底いえない。	C	A	残念ながら自転車事故に関しては、2月末で16件である。生徒が自分の命を守るための行動を自分のものとして考えられるような工夫を考える必要がある。
	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	保健委員会活動（保健だより等）により、感染症・健康に関する情報を発信する。	B	—	地震発生時の対応についてのマニュアルの改訂と第2回訓練時を契機に周知徹底を図っていく。	A	—	第2回訓練は目的を絞り満足のいく内容で実施できた。安全のための行動については、マナーリズムに注意し、常に工夫改善を心掛けている。
					B	B	継続して保健委員会等で健康に関する情報を発信し、健康の保持・増進に努めたい。	B	B